

※一部非公開

令和5年度入学試験問題（学校推薦型選抜Ⅱ）

## 小論文

人文社会学部 人間社会学科

### 注意事項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は、120分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

## 問 題

次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

**非公開**

# 非公開

(松村一志, 『エビデンスの社会学 証言の消滅と真理の現在』, 青土社, 2021年, 9  
～11 ページ, 抜粋・一部改変)

問 この文章の内容を端的に表すキーワード(単語)を3つ用いて, あなた自身の考えを,  
1000字以上1200字以内で論じなさい。キーワード3つは, 答案の中で初めて出すときに  
下線を引きなさい。それらのキーワードは, 文中から選ぶか, または, 自分で考案しても  
かまいません。

## 令和5年度入学試験問題（学校推薦型選抜Ⅱ）

# 小論文

### 人文社会学部 人間社会学科

#### 出題の意図

人間社会学科は、人間科学に関する専門的な知と幅広い学問的知をもとに、個人の尊厳を保ち、自由・公平に、また安心・安全に生きることができる社会を形成する人材を養成することを目指す。

この問題では、人間社会学科がアドミッション・ポリシーで求めている諸能力のうち、理解力、論理的思考力、記述力を評価対象とする。

この問題では、松村一志氏の『エビデンスの社会学－証言の消滅と真理の現在』という著作の一部を用いる。筆者は、「証拠」にこだわっていたにもかかわらず騙されたり、「動かぬ証拠」とされてきたことが覆ったりするという経験が実はありふれていると指摘し、「証拠」や「情報」をめぐる自明性の問い直しを促している。

問題では、まずキーワード(単語)3つを挙げさせることにより、受験生の理解度を測る。次いで、その3つのキーワードを用いた論述をさせることにより、論理的思考力と記述力を見極める。